



GENECODE

ユーザマニュアル

Apache 設定リファレンス

第 7 版

最終更新日 2015/01/23

目次

第 1 章	HTML 変換用ディレクティブ	6
1-1	GCHtmlCacheDirectory	6
1-2	GCHtmlCacheGroup	6
1-3	GCHtmlCacheHtml	7
1-4	GCHtmlCacheIgnoreEtag	7
1-5	GCHtmlCacheValidationMethod	8
1-6	GCHtmlCacheExpire	8
1-7	GCHtmlCompileLog	9
1-8	GCHtmlConvertBackslash	9
1-9	GCHtmlConvertUrl	9
1-10	GCHtmlDefaultEncoding	10
1-11	GCHtmlDeviceGroupFile	10
1-12	GCHtmlEngine	11
1-13	GCHtmlFirefoxHome	11
1-14	GCHtmlIpAddressFile	12
1-15	GCHtmlJQueryFile	12
1-16	GCHtmlJsDirectory	12
1-17	GCHtmlLicenseFile	13
1-18	GCHtmlLogFile	13
1-19	GCHtmlLogLevel	14
1-20	GCHtmlMaxRss	14
1-21	GCHtmlPreserveMarkingClass	15

1-22	GCHtmlQuirksParser	15
1-23	GCHtmlSystemJsFile.....	16
1-24	GCHtmlTemplate	16
1-25	GCHtmlTemplateMappingFile	17
1-26	GCHtmlTerminfoExtensionDirectory	17
1-27	GCHtmlTerminfoKeyFile	17
1-28	GCHtmlTerminfoScriptFile.....	18
1-29	GCHtmlTemplatePreview	18
1-30	GCHtmlUnsupportUrl	19
1-31	GCHtmlWorkDirectory	19
第 2 章	CSS 変換用ディレクティブ	20
2-1	GCcssCacheCss	20
2-2	GCcssCacheGroup.....	20
2-3	GCcssCacheDirectory	21
2-4	GCcssConversionFile.....	21
2-5	GCcssEngine	21
2-6	GCcssLicenseFile	22
第 3 章	画像変換用ディレクティブ	23
3-1	GCImpCacheDirectory.....	23
3-2	GCImpCacheLevel.....	23
3-3	GCImpCommandParam	24
3-4	GCImpEngine	24
3-5	GCImpIgnoreEtag.....	25
3-6	GCImpImageMagickHome	25

3-7	GCImpIpAddressFile	26
3-8	GCImpJpegCompress3G.....	26
3-9	GCImpJpegCompressDefault.....	26
3-10	GCImpLicenseFile.....	27
3-11	GCImpTempDirectory	27
3-12	GCImpWorkDirectory	28

改訂履歴

版数	発行日	改訂内容
第 1 版	2012 年 12 月 7 日	・初版発行
第 2 版	2013 年 1 月 16 日	・ver 1.1 対応
第 3 版	2013 年 3 月 28 日	・ver 1.2 対応
第 4 版	2014 年 3 月 20 日	・ver 1.3 対応 (GCHtmlMaxRss ディレクティブを追加)
第 5 版	2014 年 4 月 18 日	・「端末グループ」に表記を統一
第 6 版	2014 年 8 月 7 日	・ver 1.3.2 対応 (GCHtmlQuirksParser ディレクティブを追加)
第 7 版	2015 年 1 月 23 日	・ver 1.4.0 対応 (GCHtmlCacheIgnoreEtag, GCHtmlCacheValidationMethod, GCHtmlCacheExpire, GCCssCacheCss, GCCssCacheGroup, GCCssCacheDirectory ディレクティブの追加)

第1章 HTML 変換用ディレクティブ

1-1 GCHtmlCacheDirectory

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCHtmlCacheDirectory <ディレクトリパス>
コンテキスト	サーバー設定
上位設定の継承	なし
説明	HTML 変換情報や端末情報を保存するために使用します。ここで指定したディレクトリには Apache ユーザに対する書き込み権限が必要になります。
デフォルト値	省略不可
設定例	GCHtmlCacheDirectory /var/genecode/cache

1-2 GCHtmlCacheGroup

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlCacheGroup <端末グループ>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost / Location
上位設定の継承	あり
説明	HTML キャッシュの対象となる端末グループをカンマ区切りで指定します。「GCHtmlCacheHtml On」で HTML キャッシュを有効にしている状態であっても、指定した端末グループに含まれない場合は、HTML キャッシュは有効になりません。「GCHtmlCacheHtml On」を指定する場合、必ず設定が必要です。
デフォルト値	なし
設定例	<Location ~^/\$> GCHtmlCacheHtml On

GCHtmlCacheGroup ios,android
</Location>

1-3 GCHtmlCacheHtml

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlCacheHtml <On / Off>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost / Location
上位設定の継承	あり
説明	HTML キャッシュの有効・無効を設定します。HTML キャッシュを有効にする場合、GCHtmlCacheGroup ディレクティブで対象となる端末グループも設定する必要があります。
デフォルト値	Off
設定例	GCHtmlCacheHtml On GCHtmlCacheGroup ios,android

1-4 GCHtmlCacheIgnoreEtag

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.4.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlCacheIgnoreEtag <On / Off>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost / Location
上位設定の継承	あり
説明	Proxy 先のコンテンツ変更確認時に、If-None-Match/Etag ヘッダを使用せず、If-Modified-Since/Last-Modified ヘッダだけでコンテンツの変更確認を行います。この設定は GCHtmlCacheValidation ディレクティブで header を指定した時のみ使用されます。
デフォルト値	Off
設定例	GCHtmlCacheIgnoreEtag On

1-5 GCHtmlCacheValidationMethod

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.4.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlCacheValidationMethod <content / header>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost / Location
上位設定の継承	あり
説明	Proxy 先のコンテンツ変更確認にリクエスト/レスポンスヘッダを使用するか(header)、レスポンスコンテンツの MD5 値を用いるか(content)を設定します。Proxy 先のコンテンツが Etag や Last-Modified を正しく返せる場合は header を設定し、正しく返せない場合は content を設定してください。
デフォルト値	header
設定例	GCHtmlCacheValidationMethod content

1-6 GCHtmlCacheExpire

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.4.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlCacheExpire <1 - 2147483648 >
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost / Location
上位設定の継承	あり
説明	この設定を行うと、Proxy 先のコンテンツ変更確認を設定された秒数の間行わず、前回変換した結果を即座にレスポンスします。Proxy 先へのアクセス頻度を下げたい場合に設定してください。ただし、設定された秒数の間には変更チェックを行わなくなるので、あまり長い値を設定すると、PC コンテンツを変更した場合の反映にタイムラグが生じる可能性があります。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlCacheExpire 300

1-7 GCHtmlCompileLog

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlCompileLog <On / Off>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	なし
説明	JavaScript でコンパイル・実行エラーが発生した場合の詳細なログを出力するかどうかを設定します。On の場合はログを生成する為の情報を常に生成するようになりますので、開発時にのみ On にしてください。
デフォルト値	Off
設定例	GCHtmlCompileLog On

1-8 GCHtmlConvertBackslash

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlConvertBackslash yen
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	あり
説明	PC サイトのコンテンツに含まれるバックスラッシュ(U+005C)を円記号(U+00A5)に変換する場合に指定します。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlConvertBackslash yen

1-9 GCHtmlConvertUrl

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlConvertUrl <対象 URL> <変換後 URL>

コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	なし
説明	<p>PC サイトのコンテンツ内に含まれる URL を変換します。対象となるタグは、a タグの href 属性、form タグの action 属性、frame/iframe タグの src 属性のみです。また、テンプレートに属性 gc-convert="on" が記述された場合も URL が変換されます。</p> <p>URL 変換は単純な置換処理です。対象 URL が属性に先頭一致する場合、一致した部分が変換 URL に置換されます。</p>
デフォルト値	なし
設定例	<pre>GCHtmlConvertUrl http://www.example.com/ http://sp.example.com/ GCHtmlConvertUrl /pc/ /sp/</pre>

1-10 GCHtmlDefaultEncoding

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlDefaultEncoding <エンコーディング>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	なし
説明	<p>PC サイトで使用している文字エンコーディングを指定します。PC コンテンツの meta タグや Content-Type ヘッダに文字エンコーディング指定がされている場合はそれらを使用しますので、このディレクティブの設定は必要ありません。</p>
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlDefaultEncoding Shift_JIS

1-11 GCHtmlDeviceGroupFile

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlDeviceGroupFile <ファイルパス>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost

上位設定の継承	なし
説明	端末グループを設定するファイルを指定します。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlDeviceGroupFile /var/genecode/conf/group.gcl

1-12 GCHtmlEngine

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlEngine <On / Off> <env=環境変数名>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost / Location
上位設定の継承	あり
説明	HTML 変換機能の有効・無効を切り替えます。この設定が On の Location に対してのみ HTML 変換が行われます。 1.1.0 からは第 1 引数が On の場合にのみ第 2 引数で環境変数を指定できるようになります。第 2 引数を設定した場合は、指定した環境変数が存在する場合にのみ Engine が On になります。
デフォルト値	Off
設定例	<Location /foo/> GCHtmlEngine On </Location> # Mozillaで始まるUser-Agentの場合にのみEngineを有効にする BrowserMatch ^Mozilla moz=1 GCHtmlEngine On env=maz

1-13 GCHtmlFirefoxHome

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCHtmlFirefoxHome <ディレクトリパス>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし

説明	GeneCode 用 Firefox のインストールパスを設定します。現在この値は /var/genecode/lib/firefox-3.5.19-gc/lib/firefox-3.5.19 以外はサポートしていません。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlFirefoxHome /var/genecode/lib/firefox-3.5.19-gc/lib/firefox-3.5.19

1-14 GCHtmlIpAddressFile

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlIpAddressFile <ファイルパス>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	なし
説明	IP アドレスファイル (specific-iplist.csv) のファイルパスを指定します。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlIpAddressFile /var/genecode/conf/specific-iplist.csv

1-15 GCHtmlJQueryFile

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCHtmlJQueryFile <ファイルパス>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし
説明	GeneCode 動作用にカスタマイズされた jQuery のファイルパスを指定します。この値は変更する必要はありません。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlJQueryFile /var/genecode/js/jquery-1.7.2.gc.js

1-16 GCHtmlJsDirectory

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCHtmlJsDirectory <ディレクトリパス>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	あり
説明	サーバーサイド JavaScript のディレクトリパスを指定します。このディレクトリ内にはコントローラや GC パーツを配置します。GC パーツはサブディレクトリ gcparts に配置します。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlJsDirectory /home/genecode/js

1-17 GCHtmlLicenseFile

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCHtmlLicenseFile <ファイルパス>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし
説明	GeneCode 用ライセンスファイルのパスを指定します。この設定は、GCCssLicenseFile、GCImgLicenseFile と同じ値を設定します。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlLicenseFile /var/genecode/conf/gc.license

1-18 GCHtmlLogFile

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlLogFile <ファイルパス>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	なし

説明	GeneCode テンプレートファイル等で使用するデバッグ出力関数の出力先ファイルパスを設定します。ファイルパスをカレントディレクトリからの相対パスで記述した際は、Apache の ServerRoot を基準としたパスに解釈されます。省略時はログファイルは出力されません。また、GCHtmlLogLevel ディレクティブで出力するログレベルをフィルタリングすることができます。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlLogFile logs/app_log

1-19 GCHtmlLogLevel

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlLogLevel <ログレベル[0-3]>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	なし
説明	GCHtmlLog ディレクティブで設定したログファイルにログを出力際のカレレベルを指定します。 0: 出力しない 1: error 2: error、debug 3: error、debug、trace
デフォルト値	0
設定例	GCHtmlLogLevel 2

1-20 GCHtmlMaxRss

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.3.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlMaxRss <RSS 値>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし

説明	Apache の httpd プロセスの RSS 上限値を制限する場合に指定します。 RSS 値の指定は MB 単位で、出荷時設定は 150[MB]です。 RSS 値に 0 を設定した場合、もしくはディレクティブ未指定の場合は、 genecode ランタイム ver 1.2 以前と互換動作となります。
デフォルト値	0
設定例	GCHtmlMaxRss 150

1-21 GCHtmlPreserveMarkingClass

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.2.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlPreserveMarkingClass <On/Off>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし
説明	GeneCode 属性を class 表記で使用する際に、PC コンテンツに class 属性で埋め込んだ GeneCode 属性を削除せずに残すかどうかの設定をします。この設定が Off の場合は、class 属性で記述した GeneCode 属性は、全て data-gc- から始まる属性に変換され、On の場合は data-gc- から始まる属性と、記述した class 属性の両方が存在する状態になります。
デフォルト値	Off
設定例	GCHtmlPreserveMarkingClass On

1-22 GCHtmlQuirksParser

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.3.2 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlQuirksParser <On/Off>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし
説明	ジーンコードランタイム ver 1.3.1 以前の HTML パーサーと互換性を重視

する場合にのみ、Off に設定します。Off に設定すると、厳格な HTML パーサーが使用され、不正なコメント構文や不正な終了タグが削除されま

ず。
未設定の場合は、ジーンコードランタイム ver 1.3.2 以降の HTML パーサーが使用されます。

デフォルト値	On
設定例	GCHtmlQuirksParser Off

1-23 GCHtmlSystemJsFile

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCHtmlSystemJsFile <ファイルパス>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし
説明	GCParts フレームワークのファイルパスを指定します。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlSystemJsFile /var/genecode/js/gcparts.js.bin

1-24 GCHtmlTemplate

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCHtmlTemplate <URL パス> <ディレクトリパス>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	あり
説明	テンプレートの URL をローカルディレクトリにマッピングします。通常は URL パスに /template を指定してください。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlTemplate /template /home/genecode/template

1-25 GCHtmlTemplateMappingFile

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCHtmlTemplateMappingFile <ファイルパス>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	あり
説明	テンプレートマッピング設定 (template-mapping.csv) のファイルパスを指定します。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlTemplateMappingFile /home/genecode/conf/template-mapping.csv

1-26 GCHtmlTerminfoExtensionDirectory

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.1.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlTerminfoExtensionDirectory <ディレクトリパス>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし
説明	端末情報拡張機能で実行される JS ファイルが配置されているディレクトリを指定します。省略時には端末情報拡張機能は動作しません。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlTerminfoKeyFile /var/genecode/sysjs/terminfo

1-27 GCHtmlTerminfoKeyFile

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlTerminfoKeyFile <ファイルパス>
コンテキスト	サーバ設定

上位設定の継承	なし
説明	端末情報項目設定 (terminfo-script-keys.csv) のファイルパスを指定します。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlTerminfoKeyFile /var/genecode/conf/terminfo-script-keys.csv

1-28 GCHtmlTerminfoScriptFile

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlTerminfoScriptFile <ファイルパス>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし
説明	端末情報収集用の JavaScript ファイルを指定します。未設定の場合は端末情報を取得・参照できません。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlTerminfoScriptFile /var/genecode/js/terminfo.js

1-29 GCHtmlTemplatePreview

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlTemplatePreview <On/Off>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	なし
説明	この機能はビルダーからのプレビューを有効にするかどうかを設定します。ビルダーからのプレビュー時にはリクエストヘッダ X-GC-Template ヘッダが送信され、それによって使用するテンプレートを切り替えます。基本的には開発環境でのみ有効にしてください。
デフォルト値	Off
設定例	GCHtmlTemplatePreview On

1-30 GCHtmlUnsupportUrl

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCHtmlUnsupportUrl <リダイレクト先 URL>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	なし
説明	GCHtmlDeviceGroupFile ディレクティブで設定した端末グループ設定ファイルに定義されている端末グループ「unsupport」に当てはまる機種でアクセスした場合にリダイレクトされる URL を設定します。このディレクティブが未設定の場合、端末グループ設定ファイルに unsupported グループが未定義の場合は、リダイレクトされません。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlUnsupportUrl http://www.example.com/

1-31 GCHtmlWorkDirectory

関連モジュール	mod_gc_html
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCHtmlWorkDirectory <ディレクトリパス>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし
説明	GeneCode 動作中に一時的に生成するファイルの出力先ディレクトリを設定します。通常このディレクトリの中は Apache の動作中のみファイルが存在します。このディレクトリには Apache ユーザに対する書き込み権限が必要です。
デフォルト値	なし
設定例	GCHtmlWorkDirectory /var/genecode/work

第2章 CSS 変換用ディレクティブ

2-1 GCCssCacheCss

関連モジュール	mod_gc_css
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.4.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCCssCacheCss <On / Off>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost / Location
上位設定の継承	あり
説明	CSS 変換キャッシュを有効にします。
デフォルト値	Off
設定例	GCCssCacheCss On

2-2 GCCssCacheGroup

関連モジュール	mod_gc_css
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.4.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCCssCacheGroup <端末グループ>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost / Location
上位設定の継承	あり
説明	Css キャッシュの対象となる端末グループをカンマ区切りで指定します。「GCCssCacheCss On」で HTML キャッシュを有効にしている状態であっても、指定した端末グループに含まれない場合は、Css キャッシュは有効になりません。「GCCssCacheCss On」を指定する場合、必ず設定が必要です。また、設定する値は GCHtmlCacheGroup と同じ値にする必要が有ります。このディレクティブで設定可能な端末グループについては、別紙「設定ファイルリファレンス」の「端末グループ設定」を参照してください。
デフォルト値	なし

設定例 <Location ~ ^/\$>
 GCCssCacheCss On
 GCCssCacheGroup ios,android
 </Location>

2-3 GCCssCacheDirectory

関連モジュール	mod_gc_css
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.4.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCSSsCacheDirectory <ディレクトリパス>
コンテキスト	サーバー設定
上位設定の継承	なし
説明	CSS 変換結果情報を保存するために使用します。ここで指定したディレクトリには Apache ユーザに対する書き込み権限が必要になります。
デフォルト値	省略不可
設定例	GCSSsCacheDirectory /var/genecode/cache

2-4 GCCssConversionFile

関連モジュール	mod_gc_css
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCSSsConversionFile <ファイルパス>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	なし
説明	CSS 変換で使用する変換ルールファイルのパスを指定します。この設定が未設定の場合は、CSS 変換は行われません。
デフォルト値	なし
設定例	GCSSsConversionFile /var/genecode/conf/css-conversion.csv

2-5 GCCssEngine

関連モジュール	mod_gc_css
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCssEngine <On/Off> <env=環境変数名>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost / Location
上位設定の継承	あり
説明	<p>CSS 変換機能の有効・無効を切り替えます。この設定が On の Location に対してのみ CSS 変換が行われます。CSS 変換シートによる全体変換を行うにはこの設定の他に、GCssConversionFile ディレクティブで CSS 変換シートのファイルパスを設定してください。</p> <p>1.1.0 からは第 1 引数が On の場合にのみ第 2 引数で環境変数を指定できるようになります。第 2 引数を設定した場合は、指定した環境変数が存在する場合にのみ Engine が On になります。</p>
デフォルト値	なし
設定例	<pre><Location /foo> GCssEngine On </Location> # Mozilla で始まる User-Agent の場合にのみ Engine を有効にする BrowserMatch ^Mozilla moz=1 GCssEngine On env=maz</pre>

2-6 GCssLicenseFile

関連モジュール	mod_gc_css
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCssLicenseFile <ファイルパス>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし
説明	<p>GeneCode 用ライセンスファイルのパスを指定します。この設定は、GCHtmlLicenseFile、GCImgLicenseFile と同じ値を設定します。</p>
デフォルト値	なし
設定例	GCssLicenseFile /var/genecode/conf/gc.license

第3章 画像変換用ディレクティブ

3-1 GCImpCacheDirectory

関連モジュール	mod_gc_img
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCImpCacheDirectory <ディレクトリパス>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし
説明	取得した画像や画像変換結果を保存するために使用します。ここで指定したディレクトリには Apache ユーザに対する書き込み権限が必要になります。
デフォルト値	なし
設定例	GCImpCacheDirectory /var/genecode/cache

3-2 GCImpCacheLevel

関連モジュール	mod_gc_img
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.1.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCImpCacheLevel <キャッシュレベル[0-2]>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost / Location
上位設定の継承	あり
説明	画像変換モジュールで使用する画像キャッシュの強さを設定します。 0: キャッシュファイルを保存しない 1: 画像変換後のファイルのみ保存する 2: 元画像ファイル、画像変換後のファイルを保存する
デフォルト値	2
設定例	GCImpCacheLevel 1

3-3 GCImgCommandParam

関連モジュール	mod_gc_img
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCImgCommandParam <パラメータ名>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	あり
説明	画像に付与される画像変換指示用のパラメータ名を設定します。基本的には変更する必要はありませんが、_gccmd という名前が使用できない場合にはこの設定を変更します。この設定値を変更した場合は、画像変換指示を付与するパーツで使用しているパラメータ名も変更する必要があります。
デフォルト値	_gccmd
設定例	GCImgCommandParam _gccmd

3-4 GCImgEngine

関連モジュール	mod_gc_img
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCImgEngine <On/Off> <env=環境変数名>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost / Location
上位設定の継承	あり
説明	画像変換機能の有効・無効を切り替えます。この設定が On の Location に対してのみ画像変換が行われます。 1.1.0 からは第 1 引数が On の場合にのみ第 2 引数で環境変数を指定できるようになります。第 2 引数を設定した場合は、指定した環境変数が存在する場合にのみ Engine が On になります。
デフォルト値	Off
設定例	<Location /foo> GCImgEngine On </Location> # Mozilla で始まる User-Agent の場合にのみ Engine を有効にする

BrowserMatch ^Mozilla moz=1

GCImgEngine On env=moz

3-5 GCImgIgnoreEtag

関連モジュール	mod_gc_img
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.1.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCImgIgnoreEtag <On / Off>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost / Location
上位設定の継承	あり
説明	<p>この設定を On にすると、Proxy 先からの画像レスポンスヘッダに付与されている Etag を画像キャッシュの更新条件に含めないようになります。また、クライアントにも Etag ヘッダが返却されなくなります。</p> <p>この設定は、負荷分散を行っている等の理由で、画像が更新されていない時でも Etag が常に一定ではない場合に On にします。</p>
デフォルト値	Off
設定例	GCImgIgnoreEtag On

3-6 GCImgImageMagickHome

関連モジュール	mod_gc_img
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCImgImageMagickHome <ImageMagick インストールディレクトリパス>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし
説明	<p>画像変換で使用する ImageMagick のパスを指定します。パッケージに含まれる rpm を使用した場合は、出荷時の設定から変更する必要はありません。別途ソースからインストールする際は、この設定を変更し、インストールしたディレクトリパスを指定します。</p>
デフォルト値	なし
設定例	GCImgImageMagickHome /usr

3-7 GCImgIpAddressFile

関連モジュール	mod_gc_img
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCImgIpAddressFile <ファイルパス>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost
上位設定の継承	なし
説明	IP アドレスファイル (specific-iplist.csv) のファイルパスを指定します。
デフォルト値	なし
設定例	GCImgIpAddressFile /var/genecode/conf/specific-iplist.csv

3-8 GCImgJpegCompress3G

関連モジュール	mod_gc_img
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	オプション
書式	GCImgJpegCompress3G <Off/数値>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost / Location
上位設定の継承	なし
説明	アクセス元 IP アドレスが IP アドレスファイルのネットワーク帯域に含まれる場合に、JPEG 圧縮の対象となる画像サイズの下限値を指定します。下限値はバイト数で指定します。Off を指定した場合は JPEG 圧縮を行いません。
デフォルト値	なし
設定例	<Location /> GCImgJpegCompress3G 10240 </Location>

3-9 GCImgJpegCompressDefault

関連モジュール	mod_gc_img
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降

必須 / オプション	オプション
書式	GCImpJpegCompressDefault <Off/数値>
コンテキスト	サーバ設定 / VirtualHost / Location
上位設定の継承	なし
説明	アクセス元 IP アドレスが IP アドレスファイルのネットワーク帯域に含まれていない場合に、JPEG 圧縮の対象となる画像サイズの下限値を指定します。下限値はバイト数で指定します。Off を指定した場合は JPEG 圧縮を行いません。
デフォルト値	なし
設定例	<pre><Location /> GCImpJpegCompressDefault Off </Location></pre>

3-10 GCImpLicenseFile

関連モジュール	mod_gc_img
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCImpLicenseFile <ファイルパス>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし
説明	GeneCode 用ライセンスファイルのパスを指定します。この設定は、GCCssLicenseFile、GCCssLicenseFile と同じ値を設定します。
デフォルト値	なし
設定例	GCImpLicenseFile /var/genecode/conf/gc.license

3-11 GCImpTempDirectory

関連モジュール	mod_gc_img
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	GCImpTempDirectory <ディレクトリパス>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし

説明	画像変換時に一時的に画像を出力するために使用します。ここで指定したディレクトリには Apache ユーザに対する書き込み権限が必要になります。
デフォルト値	なし
設定例	<code>GCImgTempDirectory /var/genecode/temp</code>

3-12 GCImgWorkDirectory

関連モジュール	<code>mod_gc_img</code>
利用可能ライセンス	Standard 版 / 開発版
利用可能バージョン	1.0.0 以降
必須 / オプション	必須
書式	<code>GCImgWorkDirectory <ディレクトリパス></code>
コンテキスト	サーバ設定
上位設定の継承	なし
説明	画像変換の作業ディレクトリを指定します。ここで指定したディレクトリには Apache ユーザに対する書き込み権限が必要になります。
デフォルト値	なし
設定例	<code>GCImgWorkDirectory /var/genecode/work</code>